

## 令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	山梨大学	タイプ	B①
事 業 名	A <sup>3</sup> : アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム		
海外の相手大学	杭州電子科技大学、釜慶大学校、マレーシア・ペルリス大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、平成30年度に開始された中国・杭州電子科技大学との修士デュアルディグリープログラム並びに令和3年度に開始されたマレーシア・ペルリス大学との博士課程デュアルディグリープログラムに、本事業を通じて新たに韓国・釜慶大学校との新規交流を含め、大学の国際化推進の起爆剤として位置づけられた意欲的な計画となっている。特に、各大学がもつ情報科学技術分野の強みを活かし、人工知能（AI）による社会変革に重要な役割を果たすアジアの工学系大学間でコンソーシアムを組み、国際性と知識、応用力とを兼ね備えた AI 人材を育成することを目的としており、「社会の実問題解決」に資するプログラムとして位置づけている点も興味深い。

デュアルディグリープログラムを基軸とし、短期・長期の交流プログラムを有機的に組み合わせることで4大学間の双方向の交流を促すとともに、単位互換や成績管理を含む質の保証の仕組みが具体的に構想されている。更に、オンラインを効率的に活用した反転型授業を取り入れる等、教育内容の深化を目指す工夫がみられる。デュアルディグリーの取得を目指す学生は、中国、韓国及びマレーシアの3大学全てを訪問する制度となっており、キャンパス・アジアプラスの特性を活かした申請校4校全体の交流実現を企図した計画となっている。また、英語力が不十分な学生や異文化交流に不安を抱える学生に対し、英語力向上と交流をサポートする体制構築も盛り込まれており、着実な計画となっている。また、経費に占める大学負担額の割合が漸増し、補助期間終了後の自立発展性が見込まれる。

一方で、プログラム展開の鍵となる外国語力基準は大学の現状を踏まえての設定となっているが、反転型オンライン授業では、授業内容においてディスカッション等に重きが置かれることから、参加大学の学生間でのコミュニケーション能力に差が大きい場合、授業進行の困難が想定される。外国語力向上に向けた一層の対応策の検討が必要である。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるというこの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。